



▲『蝦夷地に造られた仙台藩の砦』をテーマに講義をする平野さん(中央)

**白老町に残る史料を  
読み解く**

**古文書教室(講座編)**  
2月12日(日)、市民会館で、仙台藩白老元陣屋資料館の学芸員・平野敦史(ひらのあつし)さんを講師に迎え、『古文書教室(講座編)』(市教育委員会主催)を開催し、市内外から32人が参加しました。

今年で5年目となる同教室は、資料館などで目にする古文書について興味をもってもらい、地域の歴史や史料に関心と理解を深めることを目的に、古文書の解説などを行っています。

平野さんは、江戸時代末期に北方警備のために派遣された仙台藩の陣屋の見取り図や絵図などを紹介し、作製された時代の様子や陣屋周辺の地形などについて解説してくれました。

2/12

**障がいを知り共に生きる**

**あいサポーター研修**

2月1日(水)、市民会館で『あいサポーター研修』(市主催)を開催しました。

市は、多様な障がいの特性などを理解して、障がいのある方にちょっとした手助けや配慮を行う『あいサポーター運動』を推進するため、この運動を実践する『あいサポーター』の養成に取り組んでいます。

この日は、福祉関係者の有志が集まった団体からの申し込みを受けて開催。参加した35人の方は、障がいの種別ごとに障がいのある方が困っていることを学んだほか、手話通訳専門員の手本を見ながら手話を体験しました。

2/1



▲『こんにちは』など、日常で使われる手話を覚える参加者

**『広報のぼりべつ』が入選**

**第63回北海道広報コンクール入選**

広報技術の向上を図るため、平成28年中に発行した広報紙や広報写真、映像などについて優れた作品を表彰する『第63回北海道広報コンクール』(広報広聴技術研究会実行委員会主催)において、本市の『広報のぼりべつ』が『広報誌(紙)市の部』で5年ぶりの入選を果たしました。

『広報誌(紙)市の部』では、17作品の応募の中から、市や地域で取り組む子育て支援などについて特集を組んだ『広報のぼりべつ 8月号』が選ばれました。

今後も、市民に親しまれる広報紙作りに努めてまいりますので、ぜひご愛読ください。



▲『広報誌(紙)市の部』で入選した『広報のぼりべつ8月号』

入選

**人それぞれのおひな様**

**おひな様人形づくり教室**

2月4日(土)、郷土資料館で『おひな様人形づくり教室』(郷土資料館主催)を開催しました。

この教室は、手作りのひな飾りでひな祭りを楽しんでもらうため毎年実施。自分の手でひな人形を作ることができるため、参加した方から好評をいただいている事業です。



▲完成後のかわいらしい姿を思い浮かべながら人形作りに取り組む参加者

参加者は、色とりどりの布地の中から、おひな様の着物となる素材を選んでひな人形作りに挑戦。郷土資料館のボランティアグループ『SLG』のメンバーから作り方について丁寧な説明を受け、参加者は、かわいらしい人形を作り上げることができ、うれしそうな表情で完成したおひな様を持ち帰りました。

2/4